



浦安市危機管理監による講話

おうちの備蓄品を確認しておこう

非常持ち出し品

災害発生時に最初に持ち出す物が非常持ち出し品です。家族構成などから必要な物を考え、すぐに避難時にすぐに取り出せる場所にまとめておきましょう。

- ヘルメット
- 食料品・水
- 救急医薬品・常備薬
- 着替え
- 懐中電灯・ろうそく
- 携帯ラジオ
- 災害時用便袋
- 乳幼児のいる家庭では……ミルクや哺乳瓶、離乳食、おむつなど
- 妊婦のいる家庭では……脱脂綿、ガーゼ、サラシ、T字帯、清浄綿など
- 要介護者のいる家庭では……おむつ、補助具などの予備など

非常備蓄品

災害発生後、復旧するまでの間自足できるよう備えておくものです。最低でも3日分、できれば1週間分の量を備蓄することが推奨されています。

- 食料・水
- 卓上こんろ・燃料
- 災害時用トイレ袋

これ以外にも、家庭の状況や季節によって必要な物や量が変わります。皆さん自身で必要な物を考えてみましょう。

長期保存食について 永谷園に聞きました

令和6年8月15日に、「南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）」が出されました。そこで改めて大きな地震で水道や電気などのライフラインが止まってしまった時のために備える物の大切さを考えていこうと思います。私たちは、長期保存食を製造している株式会社永谷園へ取材に行きました。

株式会社永谷園が製造している長期保存食には、フリーズドライ製法という技術で作られた商品があります。フリーズドライ製法とは、食品を凍らせて、それを真空状態に置くことで食品の中の水分を水蒸気にして乾燥させる保存方法です。ふだん私たちが食べている物の中にも、お茶漬や即席みそ汁など、フリーズドライ製法によって作られた物が多くあります。

フリーズドライ製法の メリット

長期間の保存に向いている

水分が少ないため腐りにくく、湿気が入らないように保存することで長期間保存することができます。

ただし、保存の際に酸化しやすいという特性があるため、この会社では商品のパッケージを酸素を吸収する素材で作ることや、内部に窒素を充填することで対策しています。

軽い

元の食品に含まれていた水分がないため非常に軽く、避難所などへの大量輸送に向いています。また、道路が壊れていてもドローンで運ぶこともできます。

お湯や水をかけて すぐに食べることができる

凍らせたときに氷があった場所が穴になっているため、お湯や水が浸透しやすく、すぐに元の状態に戻ります。寒いときでもすぐに温かい食事ができることは、災害時には大きなメリットになります。

取材を受けていただいた会社の方は、「長期保存食は売り上げとしては低い商品ですが、日本は自然災害が多い国で、フリーズドライの技術を持っている会社として社会貢献の気持ちで作っています」と話してくれました。

また、災害が起こった際、避難所でもいつも食べている食事に近い物が求められているという声があったことから、この会社では長期保存食として販売している商品以外のインスタント食品も備蓄することを提案していました。

